

令和8年度（2026） 後期始業式 校長より

皆さん、おはようございます。いつも爽やかな挨拶をありがとう。先日、多摩高校に初めて来たという外部からのお客さんが、「こちらの学校の生徒さんたちは実に気持ちの良い挨拶をしてくれますね。本当にいい学校ですね」と話してくれました。昔から挨拶ほど簡単でかつ効果的なコミュニケーションはないとか、挨拶は人間らしく生きるための基本の心だとか、挨拶は毎日の暮らしの潤滑油だとか、こと挨拶の効果をうたうことばは枚挙に暇がありません。第一印象も、ほぼ挨拶で決まるといっても過言ではありません。これからも挨拶する気持ちを大切にしてください。

さて、早いもので今年度も後半戦に入りました。年度末に向けては、いろいろと悩みが多くなる時期です。しかし決して焦らないようにしてください。昨年、受験を控えた3年生に、私はこんな話をしました。「自信がある状態というのは、不安をコントロールしている状態のことである」。不安というものは将来に対して抱く精神状態のことです。つまり、将来のことを考えれば考えるほど不安になるわけです。そこで、不安をコントロールするために、ぜひ目の前のやるべきことに集中してください。先のことを考えてあれこれ悩むのではなく、その日1日1日をいかに充実させるかを考えてください。それが不安を解消する秘訣です。

ところで、皆さんは何かをしている時、「これっていったい何の役に立つのだろう」とか、「何のためにやっているのだろう」と思ったことはありませんか。そう考えることの裏には、何かを実現するためには明確な道筋というものがあって、常にゴールを意識し、それに向かって効率的な方法を取るべきだという考え方が潜んでいるのだと思います。確かに、そのような方法で目標を実現した人もたくさんいることでしょう。しかし、一見何の役にも立たないような経験が、後になって思いがけず人生に大きな転換をもたらすこともあるのです。

アップルの共同創業者、スティーブ・ジョブズの人生は、最初から成功への道筋が見えていたわけではありません。ジョブズはリード大学に入学しましたが、半年で中退します。

大学の必修科目に興味が湧かなかったのと、高い学費を親に払わせていることに罪悪感を覚えたということです。その後、彼は大学の講義を「モグリ」として受講し続けました。その中で、彼はカリグラフィー、つまり美しい文字を書く技術の講義に興味を持ちます。当時の彼には、その学びが将来何の役に立つのか、分かっていませんでした。ただ、文字の形や美しさに心を引かれ、学び続けたのです。それから何年かたち、彼がマッキントッシュというコンピューターを開発する際、この時に学んだ文字の知識が生かされました。コンピューターの画面に、美しい書体を表示するという発想につながったのです。一見すると、将来とは関係がないように思えた学びが、後になって大きな意味を持つことになりました。もし彼がカリグラフィーに興味を持たなかったら、コンピューターの美しく多様なフォントも字間調節機能も存在しなかったかもしれません。ジョブズは、2005 年、スタンフォード大学の卒業式で、次のような趣旨の言葉を語っています。「未来を見て、点と点をつなぐことはできない。過去を振り返ったときに初めて、点と点がつながっていたことが分かる」。つまり、ジョブズにとって線で示されたゴールまでの道のりは存在せず、好奇心に導かれて行ったことが点となり、それらが結びついたことで自分の人生の価値が見出されたということなのです。

今日という一日も、一つの点に過ぎません。何となく過ごすのではなく、自分の未来につながる一日にすることです。今日、授業で一つ新しいことを知る、今日、部活動を頑張った、今日、苦手なことに少しでも挑戦した、今日、誰かに思いやりのある言葉をかけた、そんな小さな行動の一つ一つが、皆さんの人生を形づくる「点」になっていきます。そして、いつか皆さんが人生を振り返ったとき、今日の経験が、あのときの努力が、あのときの出会いが、自分の人生をつくっていたのだと気づく日が来るかもしれません。

最後に、2001 年にノーベル化学賞を受賞した野依良治さんの講義を昨年聞いたのですが、そこでの印象的な言葉を紹介します。「人生は地図を持たない旅のようなもの。どうなるかなんて誰にもわからない。大切なことは、好きなことを追求すること、そして後悔しないこと」。好きをあきらめないで下さい。後期も頑張りましょう。